



菅波 茂

11月25日から31日にかけての7日間。「魂と医療」プログラムの一環としての第1回合同慰霊祭がミャンマー、カンボジア、ベトナム、フィリピンそしてインドネシアの5カ国で日本と現地の聖職者によって実施された。

AMDAは緊急人道援助および貧困対策などの多くのプロジェクトをアジアの各地で行ってきた。プロジェクトの現場で会った人々から第二次世界大戦の影響が各地に残っている事実を再確認した。第二次世界大戦はまだ過去の歴史になっていない。戦争の因果は3世代にわたり、100年たたない

と過去にならないという現実がある。現在は55年目である。

る。

AMDA本部は日本の岡山にある。アジアの各地で日本人を含む多くの人たちが亡くなられた事実は無視できない。私たちの両親の時代にこの戦争は引き起こされたが、被害者や家族はまだ生きておられる。AMDAの各支部のメンバーの中にも多くの関係者がいる。

現在、生存されている関係者の健康増進のためにAMDA多国籍医師団の力を持って貢献しうる健康・医療プロジェクトの実施を計画している。各国のAMDA支部は保健・医療プロジェクトの実施と維持に積極的に関与することになる。AMDA「魂と医療」プログラムは毎年規模を拡大する方向で実施される予定である。

第二次世界大戦で亡くなられたすべての人たちの魂のめい福をお祈りするために、日本

現在、生存されている関係者の健康増進のためにAMDA多国籍医師団の力を持って貢献しうる健康・医療プロジェクトの実施を計画している。

(アジア医師連絡協議会代表、

題字は筆者)

## AMDA「魂と医療」プログラム

と現地の聖職者の合同慰霊祭が戦